



4月、いよいよ春だね、新年度だね！そしきクンだよ！気持ちを新たに今月から各地区会が担当して取材・作成することになったよ。地区の会員同士、より知り合いの輪が広がるし、中身にも深みが増すこと間違いなし！乞うご期待だよ！そして4月号は旭川市内「北地区会」が担当。同地区内で「教育」に携わる2社にスポットを当てて、取材してきたよ。人を教え・育てるといふ事はとても大変。どんな思いで教育に取り組んできているのかな？

ひかり総合教育

代表
竹村 陽子さん

所在地 / 旭川市末広3条7丁目1-5 電話 / 0166-57-5255
FAX / 0166-57-3255

企業データ

設立 / 1977年
従業員数 / 22名 入会 / 2005年4月
紹介者 / (有)内藤表具工房 社長 内藤 英治さん

業務内容

基礎学習、パソコン、電卓、そろばん、書道

主力商品・サービス

塾、カルチャースクール
市内20教室

教育を通じて、一人ひとりの個性に光を照らす



岩本社長さんとの懇談風景

Q1: 趣味はなんですか？

仲間や仲良しと旅行。仕事も半分趣味のうち。

Q2: 御社の魅力とは？

または御社にお仕事をお願いするとどんないい事がありますか？

日本古来の文化である書道、そろばん。時代のニーズに応えるパソコン、電卓、基礎学習を指導科目としています。次世代を担う子ども達が確実な基礎学力を学ぶことにより、自信を持ち、積極性を培い、あらゆる可能性への道を開く要因となります。読み・書き・そろばんは、いつの時代にあっても必要かつ不可欠な基礎能力です。

Q3: 御社のビジネスの転機とは？

末の子が生まれてから、何が仕事をもちたい、ただし家庭に迷惑を掛けたくない仕事と考へた時に塾が思いつきました。子どもが大好き、毎日が楽しく輝いていました。アツと言う間に2、3年が経ち生徒数も400名程度に。一生の仕事、生き甲斐となりました。

Q4: 御社のこれからの抱負や目標をお聞かせください

「一人ひとりを大切に、その個々の輝きを尊重し、伝統文化の継承と時代の求めに応じた人間力の育成を目指しています」。ますます総合的人間力が求められ、個性や適応性が必要とされる時代です。昔ながらの「手に職を付ける事」が重要視されているいま、確立した基礎力を身につけて頂き、地域への貢献をさせていただきたいと思っています。

そしきクン(取材者)よりひと言

少子高齢化に向かう中、この旭川にも大手学習塾が6ヶ所一度にできるので、地元学習塾としてはどのような戦略を立てられているのかなと興味を持ちながら、訪問させていただきました。が、竹村さんは「利益を追求する学習塾」とは異なるお考えで、今の画一的な教育、5日制では、「学校の先生方が、一番苦労されているのではないのでしょうか」としながらも、28年間生活に根ざしている基礎学習塾を通して、本当に多くの人と触れ合いながら、今回グループホームひかりを立ち上げた経緯はすごいなと感じました。子供達中心の学習塾、第一線を頑張ってきたご年配の方と「本当の自分づくり」に、人として人生の延長線に関わりあえる「人って宝物ですもの」という言葉に感動さえおぼえました。本当に心から接しないと、何も進んでいかないんだなと実感しながらも、また、人としてのお話を聞きたいなと思います。ありがとうございました。

英和システム工業(株)旭川支社 社長 岩本 英和

(学)北海道立正学園 旭川実業高等学校

会員名: 理事長 堀水 享さん

所在地 / 旭川市末広8条1丁目 電話 / 0166-51-1246

FAX / 0166-51-9515 <http://www.asahikawa-jitsugyo.ed.jp/>

企業データ

設立 / 1960年3月 資本金 / 300万円
従業員数 / 103名 入会 / 2002年3月
紹介者 / (有)マイ・フレンド 社長 伊勢 國治さん

業務内容

学校教育

主力商品・サービス

自動車、建築、総合技術の3科を置くほか、商業科、普通科の5科を擁する、全国でも数少ない総合的な私立高等学校

「為せば成る」を合言葉に、確かな人間を育てる学び舎



写真左: 教頭 相馬 真吾さん

写真右: 教頭 坂本 晃悦さん

Q1: 旭川実業高校の魅力はなんですか？

工業、商業、普通の3学科の多様な目標を持つ生徒たちが互いに刺激し、より広い視野から自らを励ます糧を得ています。「為せば成る」の合言葉を実証する仲間たちの数々の実績が挑戦の勇気を与え、次々に高い目標に挑戦しています。一人ひとりの可能性を信じたきめ細かな指導を追求しています。(就職は全員内定。進学も国公立大29名と着実に前進。頑張る生徒たちが旭実高一番の自慢です)

Q2: 貴校のビジネスの転機とは？

少子化や公的助成の削減、不況などで私学は大変厳しい状況にあります。皆様が《私》ならではの新たな発想で全国に挑戦していますが、本校も「今こそ本道に根強い《公》=《上》的な意識を変える正念場」と考え、頑張る時と思っています。

Q3: 貴校のこれからの抱負や目標をお聞かせください

現在は(働)姿が見えにくい社会であり、(豊)かの中で本当の(豊)かには逆に乏しくなっている。4割もが皆精勤賞を手にして卒業する頑張りを見せる生徒たちに、一人ひとりが社会の一員としての大切な役割を持つ存在であることや、協力して(働)くことで得られる誇りや満足、豊かさについて語り、伝えていきたい。

何でも食べられる時代。しかし、ハンバーガーやカップめんについての蘊蓄は傾ける事ができても、雪間の路の臺に春一番を見つけ、その包丁にあれこれ悩むような楽しみについて知る機会・環境には乏しい。全国の舞台を目指して練習を続ける部活や、次々に難関資格に挑戦する姿勢、友達の頑張りにも勇気もらい、弱気の虫と戦いながらの進学勉強などなど、頑張る生徒たちは旭実の誇り。そんな頑張る生徒たちに、3年間のあらゆる場面を通して、手と手のぬくもりを伝え合うような交わりが「携帯」の便利さをはるかに超える素晴らしいものであることを伝えていきたい。(働)くことの意味を考え、意識を育て、その素晴らしさを伝える大きな力となる職場体験、社会体験など、皆様のご助言やご協力をお願いしたい。

そしきクン(取材者)よりひと言

坂本・相馬両教頭先生のお話を聞き、進学7割、就職3割と自分が27年前に通った実業高校とは高校としての環境が相当変わったなと感じました。進学、資格取得等と生徒の目標設定と共に夜遅くまで様々共有している点、先生方全員がどちらかの委員会に参加しながら、関わりをしようという前向きなシステム等は、同友会とも通じる部分が多くあると思われます。

また、就職希望生徒に関しても、社会人になるという意識づけ、将来の日本の担い手として同友会の「共育」と学校教育との間で、なにか可能性があるのではないかと思います。

(株)ソウダ塗研 社長 惣田 敏